

2007 大学入試センター追試験問題 数学Ⅱ・数学B (60分)

第1問 (必答問題) (配点 30)

[1] p, q は実数で, $p > 0, p \neq 1$ とする. x の方程式

$$5p^x - \frac{1}{p^x} = q \left(p^x + \frac{1}{p^x} \right)$$

を考える.

(1) 与えられた方程式が解をもつような q の範囲を求めよう.

与えられた方程式を変形すると

$$p^{\boxed{\text{ア}}}^x (\boxed{\text{イ}} - q) = \boxed{\text{ウ}} + q$$

となる. この方程式が解をもつのは $\boxed{\text{イ}} - q$ と $\boxed{\text{ウ}} + q$ が同符号のときであるから, 求める範囲は

$$\boxed{\text{エオ}} < q < \boxed{\text{カ}}$$

である.

(2) $p = 3, q = \frac{1}{2}$ のとき, $p^x = \frac{\sqrt{\boxed{\text{キ}}}}{\boxed{\text{ク}}}$ であるから $x = \frac{\boxed{\text{ケコ}}}{\boxed{\text{サ}}}$ である.

[2] 座標平面上の原点 O を中心とし、半径 2 の円を S とする。円 S 上の 2 点 A, B を

$$A(2\cos\theta, 2\sin\theta), B\left(2\cos\left(\theta+\frac{2}{3}\pi\right), 2\sin\left(\theta+\frac{2}{3}\pi\right)\right)$$

とする。ただし、 $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ とする。

円 S 上の点 A, B における接線をそれぞれ ℓ, m とし、 ℓ と m の交点を C とする。

(1) 線分 OC の長さは $\boxed{\text{シ}}$ であり、点 C の座標は

$$\left(\boxed{\text{ス}} \cos\left(\theta + \frac{\pi}{\boxed{\text{セ}}}\right), \boxed{\text{ス}} \sin\left(\theta + \frac{\pi}{\boxed{\text{セ}}}\right) \right)$$

である。

(2) 線分 AC の中点を P とし、直線 ℓ と x 軸の交点を Q とする。点 P の座標は

$$\left(\boxed{\text{ソ}} \cos\theta - \sqrt{\boxed{\text{タ}}} \sin\theta, \boxed{\text{ソ}} \sin\theta + \sqrt{\boxed{\text{タ}}} \cos\theta \right)$$

と表される。

三角形 OAC の面積が三角形 OQA の面積の 2 倍になるとき、点 P の座標は

$$\left(\frac{\sqrt{\boxed{\text{チ}}}}{\boxed{\text{ツ}}}, \frac{\boxed{\text{テ}} \sqrt{\boxed{\text{トナ}}}}{\boxed{\text{ツ}}} \right)$$

である。

第2問 (必答問題) (配点 30)

a を実数とし, x の関数 $f(x)$ を

$$f(x) = (x+1)\{x^2 - (3a-2)x + 2a(a-1)\}$$

とする.

- (1) 座標平面上の点 $P(-1, 0)$ における曲線 $y = f(x)$ の接線 ℓ の方程式は

$$y = \left(\boxed{\text{ア}} a^2 + a - \boxed{\text{イ}} \right) (x+1)$$

である.

x の関数 $g(x)$ を

$$g(x) = \left(\boxed{\text{ア}} a^2 + a - \boxed{\text{イ}} \right) (x+1) - f(x)$$

とすると, $g(x)$ の極大値は

$$a < \boxed{\text{ウ}} \text{ のとき } \boxed{\text{エ}}$$

$$a > \boxed{\text{ウ}} \text{ のとき } \boxed{\text{オ}} a^{\boxed{\text{カ}}}$$

である.

- (2) 曲線 $y = f(x)$ と x 軸との共有点の座標は

$$(-1, 0), \left(\boxed{\text{キ}}, 0 \right), \left(\boxed{\text{クケ}} - \boxed{\text{コ}}, 0 \right)$$

である. 以下では, これらの共有点は異なる 3 点であるとする.

x 軸上において, 点 $(-1, 0)$ が他の二つの点の間にあるような a の範囲は

$$\boxed{\text{サシ}} < a < \frac{\boxed{\text{ス}}}{\boxed{\text{セ}}}$$

である.

また, 点 $(\boxed{\text{キ}}, 0)$ と点 $P(-1, 0)$ を通り, P における接線が ℓ となるような放物線の方程式を $y = h(x)$ とすると

$$h(x) = \left(\boxed{\text{ソ}} - \boxed{\text{タチ}} \right) (x+1) \left(x - \boxed{\text{キ}} \right)$$

である. さらに, 定積分

$$I = \int_{-1}^0 h(x) dx$$

の値は

$$I = -\frac{\boxed{\text{ツ}}}{\boxed{\text{テ}}} \left(\boxed{\text{ソ}} - \boxed{\text{タチ}} \right) \left(\boxed{\text{トナ}} + \boxed{\text{ニ}} \right)$$

である.

第3問 (選択問題) (配点 20)

$\{a_n\}$ を初項 a 、公差 d の等差数列とし、 $\{b_n\}$ を初項 a 、公比 r の等比数列とする。ただし、 $a \neq 0$ 、 $r \neq 1$ とする。

(1) $a_5 = b_2$ とすると

$$d = \frac{a(r - \boxed{\text{ア}})}{\boxed{\text{イ}}}$$

である。さらに、 $a_{17} = b_3$ とすると

$$r = \boxed{\text{ウ}}, d = \frac{a}{\boxed{\text{エ}}}$$

となる。このとき、 $a_m = b_n$ となる m は n を用いて

$$m = \boxed{\text{オ}} \cdot \boxed{\text{カ}}^{n-1} - \boxed{\text{キ}}$$

と表される。

(2) $c_n = \boxed{\text{オ}} \cdot \boxed{\text{カ}}^{n-1} - \boxed{\text{キ}}$ とおく。このとき、数列 $\{c_n\}$ は漸化式

$$c_{n+1} = \boxed{\text{ク}} c_n + \boxed{\text{ケ}} \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

を満たす。 p を実数とし、 $p \neq 0$ とする。数列 $\{d_n\}$ を

$$d_n = pc_n^2 + \boxed{\text{ク}} c_n + \boxed{\text{ケ}}$$

により定めるとき、 $\{d_n\}$ の階差数列が等比数列であるとする。このとき

$$p = \frac{\boxed{\text{コ}}}{\boxed{\text{サ}}}$$

である。また、数列 $\{d_n\}$ の初項から第 n 項までの和 S_n は

$$S_n = \frac{\boxed{\text{シ}}}{\boxed{\text{ス}}} \left(\boxed{\text{セ}}^n - \boxed{\text{ソ}} \right) + \frac{\boxed{\text{タ}}}{\boxed{\text{チ}}} n$$

である。

第4問 (選択問題) (配点 20)

三角形 ABC の 3 辺の長さがそれぞれ $AB=3$, $BC=a$, $CA=6$ であるとする. 点 P は

$$a\vec{PA} + 6\vec{PB} + 3\vec{PC} = \vec{0}$$

を満たすとする. また, $\vec{AB} = \vec{x}$, $\vec{AC} = \vec{y}$ とおく.

- (1) 直線 AP と直線 BC の交点を D とする. \vec{AP} , \vec{AD} を \vec{x} と \vec{y} を用いて表すと, それぞれ

$$\vec{AP} = \frac{\boxed{\text{ア}}}{\boxed{\text{イ}} + \boxed{\text{ウ}}} \vec{x} + \frac{\boxed{\text{エ}}}{\boxed{\text{イ}} + \boxed{\text{ウ}}} \vec{y}$$

$$\vec{AD} = \frac{\boxed{\text{オ}}}{\boxed{\text{カ}}} \vec{x} + \frac{\boxed{\text{キ}}}{\boxed{\text{カ}}} \vec{y}$$

となる. ($\boxed{\text{イ}}$ と $\boxed{\text{ウ}}$ は解答の順序を問わない.)

- (2) \vec{AD} と \vec{x} の内積を求めよう. (1)より

$$\vec{AD} \cdot \vec{x} = \boxed{\text{ク}} + \frac{\boxed{\text{キ}}}{\boxed{\text{カ}}} \vec{x} \cdot \vec{y}$$

である. また, 余弦定理を用いると

$$\vec{x} \cdot \vec{y} = \frac{\boxed{\text{ケコ}} - a^2}{\boxed{\text{サ}}}$$

であるから, 求める内積は

$$\vec{AD} \cdot \vec{x} = \frac{\boxed{\text{シス}} - a^2}{\boxed{\text{セ}}}$$

である.

- (3) $AD=2$ のとき, $a = \boxed{\text{ソ}} \sqrt{\boxed{\text{タ}}}$ である. このとき, 点 P から直線 AB に下した垂線と直線 AB との交点を H とする. \vec{PH} を \vec{x} と \vec{y} で表そう.

$\vec{PH} \cdot \vec{x} = \boxed{\text{チ}}$ であるから, 実数 t を用いて $\vec{AH} = t\vec{x}$ と表したとき

$$t = \frac{\boxed{\text{ツ}} - \sqrt{\boxed{\text{テ}}}}{\boxed{\text{ト}}}$$

である. したがって

$$\vec{PH} = \frac{\sqrt{\boxed{\text{ナ}} - \boxed{\text{ニ}}}}{\boxed{\text{ヌ}}} \vec{x} + \frac{\sqrt{\boxed{\text{ネ}} - \boxed{\text{ノ}}}}{\boxed{\text{ハ}}} \vec{y}$$

である.